

千葉県教育委員会会議議事録

令和元年度第8回会議（定例会）

1 期 日 令和元年10月16日（水） 開会 午前10時30分
閉会 午前11時28分

2 教育長及び出席委員

教育長 澤川 和宏
委員 佐藤 眞理
井出 元
岡本 毅
貞廣 齋子

3 出席職員

教 育 次 長 吉野美砂子

企画管理部

企 画 管 理 部 長 山口 新二
企 画 管 理 部 次 長 吉野 光好
教 育 総 務 課 長 藤谷 誠
企画管理部副参事兼教育総務課
人事給与室長 富岡 健治
教 育 政 策 課 長 岩崎 雅夫
企画管理部副参事兼
教育政策課高校改革推進室長 酒匂 一揮
財 務 課 長 榊田 善啓
教 育 施 設 課 長 西原 正男
福 利 課 長 梅島 好美

教育振興部

教 育 振 興 部 長 大野 英彦
学 校 危 機 管 理 監 中村 敏行
教 育 振 興 部 次 長 風間 慎吾
生 涯 学 習 課 長 古泉 弘志
学 習 指 導 課 長 内田 淳一
児 童 生 徒 課 長 中西 健
特 別 支 援 教 育 課 長 酒井 昌史
教 職 員 課 長 浅尾 智康
教 育 振 興 部 副 参 事 吉本 明広
学 校 安 全 保 健 課 長 日根野達也
文 化 財 課 長 大森けい子
体 育 課 長 加藤 俊文
教育振興部副参事兼体育課ちば
アクアラインマラソン準備室長 赤池 正好

企画管理部

教育政策課主幹兼教育広報室長	榊原 正策
財務課予算班長	北崎 行雄

教育振興部

生涯学習課主幹兼学校・家庭・地域連携室長	栗芝 博
同 社会教育班長	小泉 憲治
教職員課主幹兼管理室長	細川 義浩
同 主席管理主事	増田武一郎
同 管理主事	池田 淳一
同 管理主事	南 暁男
同 主幹兼任用室長	鈴木 克之
同 管理主事	村田 歩
体育課主幹兼スポーツ推進室長	都丸 輝信
同 指導主事兼競技スポーツ班長	津田 亘彦

事務局

企画管理部教育総務課副課長	青柳 誠
同 主幹兼委員会室長	神子 純一
同 主幹兼文書・情報室長	大野 光紀
同 委員会室副主幹	初芝 亨
同 主査	今井 清人
同 副主査	稲田 敏志

4 教育長開会宣告

澤川教育長が、10月12日の夜にかけて本州、関東に直撃した台風19号による県内の教育機関及び公立学校の被害状況を報告した。また、台風15号の被害も含め、各市町村教育委員会や学校の被害状況の情報収集に努めるとともに、被害を受けた児童生徒の支援に全力を努めると話した。

5 署名人の指名 岡本 毅 委員

6 令和元年度第7回教育委員会会議（定例会）議事録の承認

7 議題の宣告及び非公開の決定

本日の案件は、第35号議案から第39号議案の議案5件、報告1及び報告2の報告2件である。第35号議案から第39号議案は、教育委員会会議規則第13条第1項第一号「任免、賞罰、人事」に該当することから、非公開により審議する。

8 審議事項

報告1 令和2年度公立学校教員採用候補者選考の結果について

【教育振興部副参事】

報告資料1ページを御覧いただきたい。まずはじめに、今年度の教員採用選考は7月に第1次、8月に第2次を実施し、10月15日（火）午後3時に合格者を発表した。具体的な数字を申し上げますと、総募集人員約1,660名に対し、6,031名の志願があり、最終的に昨年度より8名多い1,834名を合格とした。合格者数を学校種等の区分別にみると、小学校合格者は870名で昨年度より16名増加した。中学校及び中高共通の合格者は732名で昨年度より18名増加し、高校専門の合格者は34名で昨年度より16名減少した。特別支援教育の合格者は157名で昨年度より10名減少し、養護教諭の合格者は41名で昨年度と同じである。本年度より始まった障害者を対象とした障害者特別枠では、今年度17名の志願者があり、合格者は6名だった。今後も、熱意にあふれ、人間性豊かで、専門性の高い教員の確保に努める。

【澤川教育長】

全国的に志願倍率が下がっている。本県の志願倍率は、本年度どうだったか。

【教育振興部副参事】

本年度の志願倍率は3.3倍であった。これは、過去10年間で最も低い倍率である。

【澤川教育長】

議会でも聞かれていることだが、未配置や講師不足の問題はどうか。防ぐ手立てはどうか。

【教育振興部副参事】

本年度の合格者数は昨年度よりも多いことや年度末の退職者数、来年度の再任用者数や学級数の見込み等を考慮すると、今年度よりも未配置を減らすことができると考えている。

【貞廣委員】

倍率が3倍を超えて安堵している。選考には、多くの方に参加してもらうことが重要である。しかし、教師としての魅力が志願する方に伝わっていないのではないか。ブラック化の報道や、中には親御さんが反対する例もある。千葉県内の公立学校はしっかりしているので、教師として働く良さを伝えてほしい。私も教育機関に関わる者としてできることはやっていきたい。

【教育振興部副参事】

志願者数の減少は重く受け止めている。志願者増を目指し、昨年度後半から、採用選考説明会等で千葉県の魅力や教師の魅力を伝えるようにしてきた。本年度も既に大学説明会や高校の出前講座を行っている。

【澤川教育長】

千葉では一定程度保っているが、今後も志願者の獲得は課題である。

報告1は終了。

報告2 第74回国民体育大会千葉県選手団の成績について

【体育課長】

報告資料2ページを御覧いただきたい。第74回国民体育大会は、冬季大会のスケート競技及びアイスホッケー競技が北海道釧路市で、スキー競技が札幌市で、本大会は茨城県で開催さ

れた。本県は、総勢597名の選手団を派遣し、男女総合成績である天皇杯得点、女子総合成績である皇后杯得点ともに第7位の成績を収め、天皇杯得点は、5年連続、皇后杯得点は、11年連続の入賞を果たした。次の3ページを御覧いただきたい。冬季大会及び本大会の開催概要と、現地激励会、選手団の活躍及び閉会式後の写真である。次の4ページを御覧いただきたい。47都道府県の順位である。開催県の茨城県が、天皇杯得点、皇后杯得点ともに1位の成績だった。本県は、天皇杯得点では北海道、京都府、福井県と、皇后杯得点では兵庫県、京都府、神奈川県と最後まで激しい入賞争いを展開した。次の5ページを御覧いただきたい。本県の競技別の成績である。天皇杯得点では、12番の体操、14番のレスリング、23番の馬術、25番の柔道、29番のライフル射撃が2位となり、皇后杯得点では29番のライフル射撃が1位、23番の馬術、39番のゴルフが2位となり、天皇杯得点では16競技、皇后杯得点では14競技が入賞した。次回、第75回大会「燃ゆる感動かごしま国体」での連続入賞に向け、引き続き、県スポーツ協会や各競技団体と連携し、競技力の向上に努める。

【澤川教育長】

選手団の中には、台風15号により被災し、コンディション作り等で苦勞した方も少なからずいたはずだが、そのような状況下でもよく健闘してくれた。第75回大会でも入賞に向けて頑張ってもらいたい。

報告2は終了。

教育長報告 令和元年9月定例県議会の概要について

【澤川教育長】

資料「令和元年9月定例県議会報告」を御覧いただきたい。はじめに、議案についてだが、教育委員会関係は、資料1ページ、議案第1号「令和元年度千葉県一般会計補正予算(第2号)」、資料2ページ、議案第11号「地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について」の2件が提案され、それぞれ原案どおり可決された。

次に、本会議における代表質問及び一般質問についてだが、障害者雇用の取組や県立高校の施設整備に関する質問など59件の質問があった。詳細は、資料3ページ～5ページの「令和元年9月定例県議会「本会議」質問項目一覧表(教育関係)」のとおりである。このうち、主なものについて、その内容を紹介する。

3ページ、No.1を御覧いただきたい。「障害者雇用の、事務ミスの再発防止にどのように取り組んでいくのか。」との質問には、「本年4月から8月までに国へ報告した調査について、緊急点検を実施するとともに、毎年実施される統計調査の業務マニュアルの見直しを行っている。また、職員を対象に、業務改善研修を実施することとし、8月には、外部講師を招いて「業務マニュアルの活用」をテーマに研修を実施したところである。」と答弁をした。No.2の「今後、どのように障害者雇用に取り組んでいくのか。」との質問には、「190人分の障害者を2年間で採用する計画に新たに87人分を追加採用する必要が生じ、現在、計画の修正について、千葉労働局と調整を行っている。具体的には、正規職員である事務職員等について、障害者採用枠を大幅に拡大するとともに、新たに、司書等についても募集を行い、非常勤職員についても、学校技能員等の採用を増やしていく。さらに、障害のある職員が不安なく就労いただけるよう、業務内容の工夫や、職場研修の他、相談員の増員など、定着に向けた支援に積極的に取り組んでいく。」と答弁をした。No.18の「避難所としても活用される県立高校体育館のトイレの洋式化について、今後の整備方針はどうか。」との質問には、「これまで順次、洋式化を行ってきたが、避難所として指定されている108校のうち48校の体育館において、未設置のままとなっている。トイレの洋式化は、市町村からも強い要望があることから、県教育委員会では、男女トイレの少なくとも1箇所ずつは、洋式トイレとすることが望ましいと考え、今後、速やかに整備を進めていく。」と答弁をした。4ページ、No.26の「本県の県立学校におけるICT環境整備の進捗状況はどうか。」との質問には、「本県の県立学校は、指導用コ

コンピュータ及び超高速インターネット等の整備については、国の目標を達成しているが、無線LAN、プロジェクタ等の大型提示装置、教育用コンピュータの整備は、目標を大きく下回っている。県教育委員会では、令和4年度にネットワークシステムの更新を控えていることから、早期に整備計画を策定し、学校における通信環境等の更なる整備を図る。また、生徒が使う教育用コンピュータについても、ICT環境検証事業の成果を踏まえ、更なる整備を進めていく。」と答弁をした。No.33の「来年度に向けて、部活動指導員やスクール・サポート・スタッフの配置をどのように進めていくのか。」との質問には、「部活動指導員については、「指導に係る心理的負担が軽減された」、「適切な部活動運営への意識が学校全体で高まった」などの声が、また、スクール・サポート・スタッフについては、「教材研究の時間が増えた」、「業務の見直しをする良い機会となった」などの声が寄せられている。来年度に向けて、これらの効果を検証しつつ、国の予算拡充の動きや市町村等からの要望を踏まえ、配置の在り方を検討していく。」と答弁をした。

次に、文教常任委員会における質問についてである。資料6ページの「令和元年9月定例県議会文教常任委員会委員長報告」を御覧いただきたい。このうち、主なものについて紹介すると、議案第1号関連では、県立学校に、ICカード式のタイムレコーダーを導入することで、学校の働き方改革にどんな効果を見込むのかについて、当面する諸問題については、台風15号の被害により、不安を抱える児童生徒への心のケアや、市町村立小中学校の復旧に向けた支援、被災した文化財の復旧にどう取り組むのかに関する質問などがあつた。本議会における質問等の詳細については、「千葉県議会時報」等の資料により、随時、情報提供をしていく。

委員報告は終了。

<傍聴・報道 退出>

第35号議案 千葉県生涯学習審議会委員の任命について

第36号議案 千葉県社会教育委員の委嘱について

【生涯学習課長】

第35号議案「千葉県生涯学習審議会委員の任命について」及び第36号議案「千葉県社会教育委員の委嘱について」一括して説明する。生涯学習審議会と社会教育委員会議は、審議事項が密接に関連していることから、平成19年より、同一委員での合同開催としている。生涯学習審議会委員は、学識経験者など、人格識見ともに優れた者のうちから、知事の意見を聴いて、県教育委員会が任命することとなっているが、知事からは異論はない旨の回答を既に得ている。また、社会教育委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が委嘱することとなっている。

議案資料1-1ページを御覧いただきたい。今回の、任期満了に伴い任命及び委嘱したい委員は、「千葉県生涯学習審議会委員及び千葉県社会教育委員候補予定者名簿」のとおりである。委員候補者は、新任が3名、再任が6名の計9名である。なお、「附属機関の設置及び運営等に関する指針」において、「委員の改選期等を目処に可能な限り縮小すること」とされていることから、今回の改選を機に、これまでの10名から1名減の9名とさせていただきたい。

それでは、新任の委員候補者について、選任理由等を申し上げる。名簿番号4番、社会教育・図書館から選出した田中氏は、読書県「ちば」を推進する上でも、市町村図書館との連携・協力は不可欠であることから、市町村図書館関係者の中から選任した。また、図書館運営に通じていることから、専門的な提言が期待できる。名簿番号6番、家庭教育から選出した式場氏は、親業訓練協会シニアインストラクターとして活躍されており、行政・学校・地域・企業など幅広い分野で講演活動を行っている。まさに、家庭教育の立場から意見が期待できる。名簿番号7番、家庭教育・PTAから選出した岡部氏は、野田市立小中学校PTA役員、郡市PTA連絡協議会副会長を歴任し、現在、千葉県PTA連絡協議会会長として活動されている。長年、PTAの立場から社会教育活動・生涯学習活動に携わっていたことから、貴重な提言が

期待できる。この他、再任の委員、すなわち名簿番号、1番 福田委員、2番 重栖委員、3番 田村委員、5番 久留島委員、8番 二村委員、9番 望戸委員については引き続き委員をお務め頂きたいと考える。現在の委員の平均年齢は61.9歳である。女性委員は4名で構成割合は、44.4パーセントとなっており、委員の任期については令和元年11月19日から令和3年11月18日までの2年間とする。また、参考までに、附属機関の概要及びこれまでの審議内容等を、議案資料1-2ページから1-4ページに記載した。

【澤川教育長】

確認をさせていただく。今回、委員数を10名から9名にしたわけだが、どの分野の人数を減らしたのか。

【生涯学習課長】

今回、学識経験者の枠を1名減らすことにした。

【澤川教育長】

第35号議案について、可決したいがよろしいか。

【佐藤教育長職務代理者・委員】

よい。

【澤川教育長】

第35号議案は、原案どおり可決する。

【澤川教育長】

続いて、第36号議案について、可決したいがよろしいか。

【佐藤教育長職務代理者・委員】

よい。

【澤川教育長】

第36号議案は、原案どおり可決する。

第37号議案 学校職員の懲戒処分について

教職員課長の説明後、協議を行い、原案どおり可決した。

第38号議案 学校職員の分限処分について

教職員課長の説明後、協議を行い、原案どおり可決した。

第39号議案 令和元年度教育功労者の決定について

【教育総務課長】

議案資料7-1ページ、「教育功労者表彰の概要」をご覧いただきたい。県教育委員会では、本県における教育、学術又は文化の振興に関し、特に功績の顕著であった個人又は団体を教育功労者として、昭和25年から毎年表彰しており、今回で70回目の表彰となる。表彰分野については、議案資料1の教育行政の部、学校保健の部、芸術文化の部、社会教育の部、学校教

育の部の5分野である。候補者の選定にあたっては、市町村教育委員会や関係団体等からの推薦があった個人、団体の中から、これまでの活動等が本県における教育、学術又は文化の振興に関し、表彰に値するかどうかを詳細に検討し、本日お示しする候補者とした。その結果、本年度の候補者は、2の表のとおり、93名の個人と22の団体となる。今後は、候補者の受賞意思及び氏名等の公表の可否について確認した上で、10月18日（金）に報道発表を予定している。また、表彰式については11月1日（金）、ホテルポートプラザちばにて行い、委員の皆様にもご出席いただく予定である。

【澤川教育長】

県教育委員会が行う表彰の中で1番権威のある表彰である。長年に渡って県の教育行政、文化、芸術、社会教育含め、様々な形で御貢献いただいた個人、団体である。

【澤川教育長】

第39号議案について、可決したいがよろしいか。

【佐藤教育長職務代理者・委員】

よい。

【澤川教育長】

第39号議案は、原案どおり可決する。

9 教育長閉会宣告